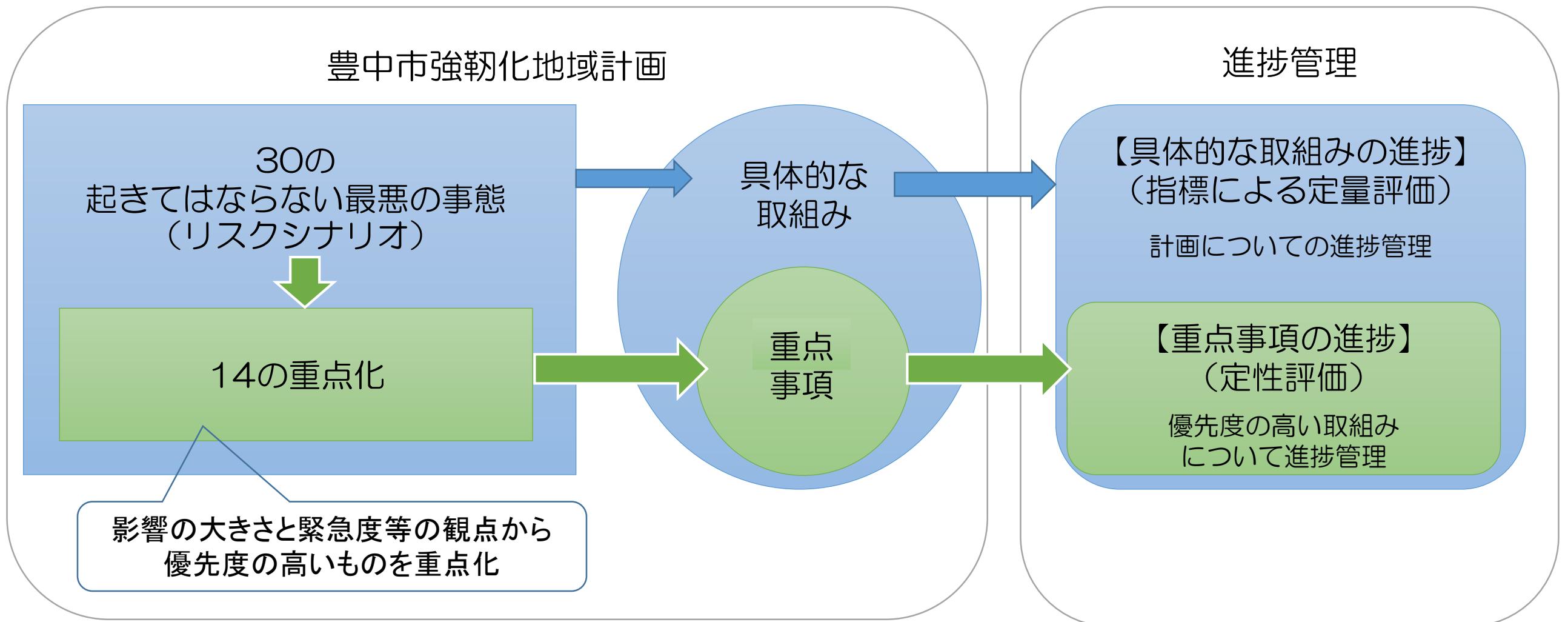


○計画の進捗管理について

- ◆本計画では、本市における30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」と、それに対応するための「具体的な取組み」を設定しています。
- ◆また、30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」のうち優先度の高いものを、重点化として14抽出し、それに対する「具体的な取組み」を「重点事項」としています。
- ◆進捗管理は「具体的な取組み」と「重点事項」について行います。
 - ・具体的な取組み：指標を用い達成度を定量的に把握・評価して、計画の進捗管理を行います。
 - ・重点事項：定性的に把握して、進捗管理を行います。



○進捗状況について

◆指標の推移について

- 本計画では36の指標を設定しています。そのうち4割弱の指標において目標を達成、また取組中のものでも全体の約4割の指標が前年度に比べ上向きに推移しています。

指標の推移			
取組み状況（単位：指標数）			
達成	上向き【↗】	横ばい【→】	下向き【↘】
12	13	5	2
37.5%	40.6%	15.6%	6.3%

※実績値の比較ができなかったもの
および評価対象外の指標を除く
(計4指標)

- なお、下向きとなった指標は以下の2指標です。
- 自主防災組織など市民対象訓練等の参加者数
 - 市街地緑化率(みどり率)

◆「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」ごとの状況について

- 30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」と14の重点化として設定したリスクシナリオに対応する指標の達成状況は以下のとおりです。

令和2年度実績は、指標の達成割合に応じたA～Cによる評価を行っていましたが、進捗状況をよりわかりやすくするため、指標の傾向を含めた達成状況を掲載することとしました。

(注) 指標は複数のリスクシナリオに対応しているため、重複して掲載しています。

起きてはならない最悪の事態 (※)は重点化として設定したもの	指標の達成状況（単位：指標数）				達成度
	取組み状況				
	上向き	横ばい	下向き	R3実績値なし	
1-1 (※) 住宅・建物・交通施設等の複合的・大規模倒壊や不特定多数が集まる施設の倒壊による多数の死傷者の発生	9	5	2	2	4/22 (18.1%)
1-2 (※) 密集市街地や不特定多数が集まる施設における大規模火災による多数の死傷者の発生	8	2	2	2	5/19 (26.3%)
1-3 (※) 大規模津波等による多数の死傷者の発生	5	2	1	1	4/13 (30.7%)
1-4 (※) 突発的又は広域かつ長期的な市街地等の浸水による多数の死傷者の発生	5	2	1	1	4/13 (30.7%)
2-1 (※) 被災地での食料・飲料水・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の停止	4	4	1	0	1/10 (10%)

○進捗状況について

起きてはならない最悪の事態 (※)は重点化として設定したもの	指標の達成状況（単位：指標数）				
	取組み状況				達成度
	上向き	横ばい	下向き	R3実績値なし	
2-2 (※) 警察、消防等の被災等による救助・救急活動等の絶対的不足	5	5	2	0	3/15 (20%)
2-3 想定を超える大量の帰宅困難者の発生、混乱	0	1	1	0	1/3 (33.3%)
2-4 (※) 医療施設及び関係者の絶対的不足・被災、支援ルートの途絶、エネルギー供給の途絶による医療機能の麻痺	1	4	1	0	2/8 (25%)
2-5 被災地における疫病・感染症等の大規模発生	3	1	1	0	4/9 (44.4%)
2-6 (※) 劣悪な避難生活環境、不十分な健康管理による多数の被災者の健康状態の悪化・死者の発生	4	0	0	0	6/10 (60%)
3-1 職員・施設等の被災による機能の大幅な低下	3	1	1	1	3/9 (33.3%)
4-1 (※) 防災・災害対応に必要な通信インフラの麻痺・機能停止	9	1	1	2	8/21 (38.0%)
4-2 テレビ・ラジオ放送の中断等により災害情報が必要な者に伝達できない事態	5	1	1	1	5/13 (38.4%)
4-3 (※) 災害時に活用する情報サービスが機能停止し、情報の収集・伝達ができず、避難行動や救助・支援が遅れる事態	5	1	1	1	6/14 (42.8%)
5-1 (※) サプライチェーンの寸断等による企業の生産力低下	8	4	1	1	4/18 (22.2%)
5-2 重要な産業施設の損壊、火災、爆発等	6	4	1	0	2/13 (15.3%)
6-1 (※) 上水道等の長期間にわたる供給停止	3	0	0	0	1/4 (25%)
6-2 汚水処理施設等の長期間にわたる機能停止	3	0	0	0	1/4 (25%)

○進捗状況について

起きてはならない最悪の事態 (※)は重点化として設定したもの	指標の達成状況（単位：指標数）				
	取組み状況				達成度
	上向き	横ばい	下向き	R3実績値なし	
6-3 (※) 交通インフラの長期間にわたる機能停止	1	4	1	0	0/6 (0%)
6-4 防災インフラの長期間にわたる機能不全	3	1	1	0	2/7 (28.5%)
7-1 (※) 地震に伴う市街地の大規模火災の発生による多数の死傷者の発生	3	1	1	0	2/7 (28.5%)
7-2 沿線・沿道の建物倒壊に伴う閉塞、地下構造物の倒壊等に伴う陥没による交通麻痺	7	4	1	1	3/16 (18.7%)
7-3 ため池、防災インフラ等の損壊・機能不全や堆積した土砂の流出による多数の死傷者の発生	4	4	0	1	2/11 (18.1%)
7-4 有害物質の大規模拡散・流出による国土の荒廃	2	0	0	0	1/3 (33.3%)
7-5 農地・森林等の被害による国土の荒廃	2	0	0	0	1/3 (33.3%)
8-1 大量に発生する災害廃棄物の処理の停滞による復興が大幅に遅れる事態	3	0	0	0	1/4 (25%)
8-2 復興を支える人材等（専門家、コーディネーター、労働者、地域に精通した技術者等）の不足、より良い復興に向けたビジョンの欠如等により復興できなくなる事態	2	1	0	0	2/5 (40%)
8-3 広域地盤沈下等による広域・長期にわたる浸水被害の発生により復興が大幅に遅れる事態	1	1	0	0	1/3 (33.3%)
8-4 貴重な文化財や環境的資産の喪失、地域コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・損失	6	2	1	2	6/17 (35.2%)
8-5 事業用地の確保、仮設住宅・仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる事態	1	0	1	0	1/3 (33.3%)

○進捗状況について

◆重点事項の取組みについて

- 穂積菰江線及び利倉橋を全線開通させ、密集市街地の解消や歩行者の安全確保等に向けた取組みを進めました。
- アクア文化ホール及び武道館ひびき等の耐震化を行ったほか、阪急東側線及び曽根服部緑地線等の自転車通行空間の整備を行いました。
- 避難所開設の手順を示した動画をWEB研修として活用することで、職員の災害対応力の強化を図りました。
- 総合ハザードマップについて解説する動画の作成や、デジタル技術を活用したハザードマップの公開をとおして、洪水・高潮時に想定される浸水被害等に関する啓発を強化しました。

○今後の取組みと目標について

- 引き続き、計画の進捗状況を取りまとめ、関係部局と連携しながら大規模自然災害への備えを進めていきます。
- 国や大阪府の関連計画との整合や社会環境の変化を見極めながら、本計画についても必要に応じて修正を行います。

